

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年11月12日 (2015.11.12)

【公表番号】特表2014-528346(P2014-528346A)

【公表日】平成26年10月27日 (2014.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2014-059

【出願番号】特願2014-535740(P2014-535740)

【国際特許分類】

A 6 1 C 7/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 7/12

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月25日 (2015.9.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基部と、

前記基部から外向きに延在する本体と、

前記本体をほぼ近心側 - 遠心側方向に横切って延在する細長いアーチワイヤースロットであり、底壁及び実質的に平面状の 1 対の側壁によって少なくとも部分的に境界付けられた細長いアーチワイヤースロットと、を備え、前記アーチワイヤースロットの長手方向に沿って変化するスロット横寸法を提供するように少なくとも 1 つの側壁の少なくとも 1 つの領域にテーパが付けられ、前記 1 対の側壁が、約 0 . 5 ~ 約 1 0 度の範囲の相対角度偏差を有する、歯科矯正装置。

【請求項 2】

基部と、

前記基部から外向きに延在する本体と、

前記本体をほぼ近心側 - 遠心側方向に横切って延在する細長いアーチワイヤースロットであり、底壁及び 1 対の対向側壁によって少なくとも部分的に境界付けられた細長いアーチワイヤースロットと、を備え、前記アーチワイヤースロットの長手方向に沿って変化するスロット横寸法を提供するように少なくとも 1 つの側壁にテーパが付けられ、これによって、前記スロット横寸法が、前記アーチワイヤースロットの全長の約 3 0 ~ 約 7 5 パーセントにわたって単調に増加又は減少している、歯科矯正装置。

【請求項 3】

前記テーパが付けられた側壁のすべてが連続的に湾曲している、請求項 2 に記載の歯科矯正装置。

【請求項 4】

前記アーチワイヤースロットの横寸法が公称値を有し、前記アーチワイヤースロットの近心側及び遠心側の端部の横寸法が、その公称値を約 0 . 1 3 ミリメートル ~ 約 0 . 7 6 ミリメートルの範囲の選択された差だけ上回って増加している、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の歯科矯正装置。

【請求項 5】

前記アーチワイヤースロットが、

近心側の部分と、

遠心側の部分と、

近心側の部分と遠心側の部分との間に位置する中央部分と、を更に含み、該中央部分が、実質的に互いに平行な側壁を有し、前記近心側及び遠心側の部分が、テーパが付けられた側壁を有する、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の歯科矯正装置。